ボゴール農業大学
農学部・大学院（インドネシア共和国）

（Bogor Agricultural University）

交流協定締結年月日：2000年6月13日　主管学部：農学部

ボゴール農業大学本部

SUIJI学生フォーラム2012

ボゴール植物園

国際交流の特色（大学紹介）

ボゴール農業大学（IPB)は、首都ジャカルタの南60km、標高270mに位置するボゴール市にある。農学分野の教育と研究においてインドネシアで最も卓越した大学である。農学、獣医学、畜産学、水産学、林学、数学・自然科学等の各学部に加え、熱帯生物研究、食品技術開発、熱帯果樹研究の各センター等の多くの附属施設を有する。日本に留学した教員が多い。本学との交流は、園芸学、造園学、林産学、生化学、畜産学等の分野を中心に、研究者交流、長期・短期の留学生受入れ、本学学生の短期訪問等が行われている。2011年に本学とIPBは、愛媛大学、高知大学、インドネシアのガジャマダ大学、ハサヌディン大学と共に「熱帯農業に関するSUIJI（Six University Initiative Japan Indonesia）コンソーシアム」協定を締結し、学部1年～大学院（修士・博士課程）の学生交流を実施している。キャンパス内には上級の留学生寮がある。

交流実績（平成25年度～27年度）

受入・派遣＼年度	H25年度	H26年度	H27年度
学生の受入／派遣	5／9	8／9	7/10
教員の受入／派遣	0／3	0／3	0/0

教員からの声

ボゴール農業大学は、名実ともにインドネシアにおける農学教育と研究の中心的存在です。香川大学で学んだ元留学生が、帰国後母校に戻り、大いに活躍しています。今や彼らが、留学生の派遣・受け入れや研究交流の窓口となって、次世代の国際交流を育む役割を担ってくれています。おおらかなインドネシアの人々や多様な自然や文化に触れてみませんか。彼らもきっと「日本の母校」からの皆さんを大歓迎してくれることと思います。2012年以降はSUIJIの種々のプログラムで多くの教員、大学院生、学部学生（特に1～2年生）が双方向で交流しています。

農学部教授　片岡郁雄

学生からの声

私はSUIJI-JDPに参加して、2013年9月から2014年1月までの4ヶ月間IPBに留学しました。インドネシアは熱帯で暑いといったイメージがありますが、IPBのあるボゴールは最高気温が30℃を下回ることも少なくなく、比較的過ごしやすい環境で留学生活を送りました。IPBにはかつて日本に留学していた先生方も多くいらして、日本の話題で盛り上がることもあり、また、日本語での会話も少しできたので、留学する際のとてもよいサポートを受けました。インドネシアでは、いわゆるジャパニメーションに人気があり、IPBの学生達とは勉学の話だけではなく日本の漫画やアニメの話もしました。私が、滞在していた留学生寮では、タイ、マレーシア、ドイツの人たち、日本の他大学の人もいて、よい国際交流ができました。この留学で得たものはとても多く、日本に帰って来てからも留学中に学んだ事について考え続けています。これからの学生生活、また社会生活に活かせていけることができるものばかりなので、大切にしていきたいと思います。

農学研究科修士課程（SUIJI-JDP-Ms）2014年度修了　柳井祐介

ボゴール農業大学
(Bogor Agricultural University)
ホームページ　http://faperta.ipb.ac.id/index.php/en/

●学部・大学院生　約25,000 人